



過去に河川敷で開催された「桜カフェ」の様子
満開の桜並木をたくさんの方が楽しんでいます

【特集】智頭町観光協会・百人委員会林業部会より

千代川堤防 桜の管理

どうしてのお知らせ

人びとに愛されてきた

桜土手

桜土手の150本のソメイヨシノの植えられた背景については諸説ありますが、約60年前に当時の町民が植栽したことは知られています。千代川と新緑の山を背に満開に花開く美しい桜土手の姿は、町内外問わず多くの人に愛されてきました。

しかし、今、この桜土手に存続の危機が迫っています。

**管理の担い手の不在、
伝染病の発生：**

これまで、桜土手の管理は「桜を守る会」「観光協会」が維持管理を行ってきました。しかし、近年は担い手不足で桜土手の細かな手入れは行

われない状態が続いており、多くの木が天狗巢病（てんぐすびよつ）と呼ばれる伝染病に感染したまま放置されているのです。

天狗巢病とは？

天狗巢病は胞子で伝染し、感染した木は花が咲かなくなる病気で、徐々に衰弱した木は最後には枯れてしまいます。このままの状態が続けば桜の花はいずれ見られなくなりま

す。さらに、枯れた枝が地面に落下するため車や歩行者、通学する子どもたちに危険が生じます。こうした状況をふまえ、百人委員会林業部会では令和3年度から桜土手を未来へ引き継ぐための活動を始めました。